陸軍編 …… 5

ドイツ国防軍 …… 6
国防軍下士官（歩兵軍曹）、国防軍将校（歩兵大尉）、歩兵用個人装備……6／国防軍の階級章、ドイツ軍の小火器……7
ナチスドイツ武装親衛隊 …… 8
武装SS歩兵、武装SS将校（自動車化偵察部隊中佐）……8／一般SS隊員、武装SS戦車搭乗員（中佐）、武装SSの階級章……9
大日本帝国陸軍の軍装 …… 10
日本陸軍の階級章（昭和13年改正、昭和13年改正以前）、日本軍独自の履物、脚絆と直足袋……10／日本陸軍歩兵の軍装、将校用軍装、下士官・兵用軍装、歩兵用個人装備……11／陸軍近衛騎兵連隊大尉……12／陸軍騎兵連隊下士官・兵、昭５式軍衣および短袴……13／将校と下士官・兵では大きく異なった個人装備……14／昭和18年改正の階級章、陸軍戦車連隊中佐（連隊長）……15／日本陸軍の各種徽章……16／陸軍の軍刀、鉄鎧（試製亀甲型防楯）……17
第２次大戦のフランス陸軍 …… 18
個人装備と武器……18／フランス陸軍歩兵士官（外人部隊大尉）、フランス陸軍歩兵下士官（軍曹）……19
第２次大戦のイギリス陸軍 …… 20
イギリス陸軍の歩兵用個人装備……20／イギリス陸軍准将、陸軍兵士（コマンド隊員）、陸軍大尉……21／トレンチコート……22
第２次大戦のソ連陸軍 …… 24
ソ連軍工兵中尉、ソ連軍の歩兵用個人装備……24
第２次大戦のイタリア陸軍 …… 25
イタリア軍の歩兵用個人装備、山岳部隊将校、歩兵装備（下士官・兵）……25
空挺部隊の装備 …… 26
日本陸軍落下傘部隊の装備……26／日本海軍落下傘部隊の装備……27／アメリカ陸軍空挺部隊の装備……28／ドイツ軍降下猟兵の装備……29
第２次大戦のアメリカ陸軍歩兵の装備品 …… 30
陸軍歩兵大尉（第２レンジャー大隊）……30／アメリカ陸軍歩兵……31
ベトナム戦争のアメリカ陸軍 …… 32
第82空挺師団第３旅団　二等軍曹……32／ベトナム戦争の代表的迷彩パターン、南ベトナム軍レンジャー軍事顧問……33
現代のアメリカ陸軍①一般歩兵の個人装備 …… 34
US Army 82nd Airborne Division、ACU……34／IOTV、US Army 2nd Infantry Division……35
現代のアメリカ陸軍②レンジャー隊員 …… 36
アメリカ陸軍レンジャー隊員の装備と武器、プレートキャリアー……36／第75レンジャー連隊隊員、新型ACS、新型ACP……37
現代のアメリカ陸軍③アメリカ軍のヘルメット …… 38
ACHヘルメット、ヘッドセット……39
現代のアメリカ陸軍④車両搭乗員用の防護装備 …… 40
車両ガナー用防護装備CPE……40／改良型銃座防護衣ICPE……41／進化するアメリカ軍のボディアーマー、SPCS、IOTV Gen.2、マイクロクライメイト・クーリング・システム……42／マウンテッド・ソルジャー・システム、CVCヘルメット……43
現代のアメリカ陸軍⑤ヘリ搭乗員用装備エア・ウォーリアー・システム …… 44
PSGC、シグナル・プラットホーム、暗視装置ANVIS-9、EDM……44／エア・ウォーリアー・システム……45
進化を続ける歩兵戦闘装備 …… 46
特殊部隊にも導入される先進歩兵戦闘装備システム、ランド・ウォーリアー(Gen.2)、エクソスケルトン“HULC”……47
近年の軍の被服をめぐる問題 …… 48
アメリカ軍における女性の戦闘任務への進出と被服の問題……48／兵士の股間を守る骨盤防護システム……49
アメリカ陸軍の階級章、アメリカ陸軍の職種徽章 …… 50
アメリカ海兵隊 …… 51
ウッドランド迷彩BUDを着用した海兵隊員（1980年代）、ウッドランド迷彩BUDの特徴、アメリカ海兵隊の階級章……51
アメリカ海兵隊の戦闘個人装備① …… 52
コンバット・メディック、MARTPT FROG……52／海兵隊のボディアーマー(インターセプターOTV、MTV）……53
アメリカ海兵隊の戦闘個人装備② …… 54
海兵隊のヘルメット“LWH”、海兵隊の迷彩戦闘服“MARPAT”……54／新型ECH、AH-1Zバイパー戦闘ヘリ搭乗員……55
ドイツ連邦陸軍 …… 56
ドイツ連邦陸軍の制服……56／ドイツ連邦陸軍の階級章……57／ドイツ連邦陸軍の戦闘装備……58／ドイツ連邦陸軍戦車兵……59／ドイツ連邦陸軍ISAF派遣部隊兵士（アフガニスタン）……61
現代のフランス陸軍 …… 62
ボディアーマーRAV、フェリンT3迷彩服……62／フランス陸軍の迷彩戦闘服、フランス外人部隊第２落下傘連隊大尉……63／実戦配備が進むフェリン・システム……64／GALLET F2スペクトラ製ヘルメット、Gilet 防弾ベスト、フランス陸軍の制服と階級章……65
現代のイギリス陸軍 …… 66
近衛歩兵部隊のフルドレス、近衛歩兵グレナディアガーズ連隊大尉（フルドレス）……66／SAS連隊将校大尉（No.2ドレス）、王立電子・機械技術部隊中尉（No.2ドレス）、イギリス陸軍の階級章……67／MTP以前の戦闘服、イギリス軍の新型戦闘服MTP……68／イギリス陸軍の現用戦闘装備、コールドストリームガーズ連隊中尉（MTP迷彩戦闘装備）……69
陸上自衛隊 …… 70
陸上自衛隊の各種徽章、制服（常装）上着の階級章および各種徽章取り付け位置……70／陸自自衛官の勤務服、常装……71／陸上自衛隊の階級章、職種徽章……72／防衛記念章……73／陸上自衛隊戦闘服装（一般用）……74／普通科小銃小隊小隊長、戦闘装備（市街地用）……75
現代のオーストリア陸軍 …… 76
現代のイタリア陸軍 …… 77
イタリア陸軍の先進歩兵戦闘装備システム“NIMOS”……77
ロシア連邦軍の地上部隊 …… 78
ロシア空挺軍兵士、ロシア海軍歩兵……78／ロシアMVD（内務省）国内軍特殊部隊狙撃兵……79
北欧三国の陸軍 …… 80

海軍編 …… 81

大日本帝国海軍の軍装　その①主要な服装 …… 82
一等水兵第一種軍装、士官用第一種軍装、海軍大尉第一種軍装……82／海軍中将第二種軍装、肩章（昭和17年改正以前）、短剣および長剣……83／海軍中佐陸戦軍装、陸戦衣および陸戦袴、襟章……84／兵用第一種軍装、二等水兵第二種軍装、下士官・兵臂章……85
大日本帝国海軍の軍装　その②士官の礼装 …… 86
襟章、正肩章、サーベルおよび短剣、剣帯バックル前章……86／海軍大将正装、正帽、正衣と正袴……87／帝国海軍の階級章……88／通常礼装と礼衣、海軍中佐通常礼装（兵科将校）……89
大日本帝国海軍の軍装　その③下士官と士官の軍装および第三種軍装 …… 90
下士官・兵の優秀さを示した特技章……90／太平洋戦争末期に制定された第三種軍装、第三種軍装（兵科将校　大尉）……91／下士官第一種軍装（二等兵曹）……92／士官第一種軍装（兵科将校　中尉）……93
ドイツ海軍 …… 94
ドイツ海軍（国防軍）、ドイツ海軍の階級章……94／現代のドイツ海軍（連邦軍）、ドイツ連邦海軍の階級章……95
海上自衛隊 …… 96
常装冬服　海将（護衛艦隊司令）……96／女性用常装第１種夏服　１等海尉（航空医官）、女性用常装冬服　２等海尉（P-3C操縦士）……97／常装第１種夏服　海士長および海士……98／海上自衛隊の階級章……99／海上自衛隊の各種徽章……100／立入検査隊隊員服装（各護衛官所属）、特別警備隊隊員服装……101／海上自衛隊の作業服装……102／幹部用作業服装（１等海尉）、戦闘服装（海曹士用）……103／消化活動用個人装備……104
現代のアメリカ海軍 …… 106
サービスドレス・ブルー(水上艦勤務　少尉）……106／アメリカ海軍の将校用制服の種類、フルドレス・ホワイト（原子力空母艦長　大佐）……107／海軍のジェットパイロット装備、レインボー・ギャングのコスチューム……108／空母航空機誘導員……109／海軍新型デジタル迷彩作業服……110、111／アメリカ海軍の資格徽章……112／アメリカ海軍の階級章と職種……113／現代アメリカ海軍のセーラー服……114、115／水中作戦用装備と服装……116、117
イギリス海軍 …… 118
将官副官　海軍大尉（将校用1Aドレス）……118／水兵制服（WW2)、水上艦艇搭乗員　水兵長（水兵用1Aドレス)、イギリス海軍の階級章……119／イギリス海兵隊……120

空軍編 …… 121

航空自衛隊 …… 122
航空自衛隊の階級章……122／常装（冬服）、航空支援集団第２輸送隊第402飛行隊C-1パイロット……123／航空自衛隊の部隊章および徽章……124／常装（第１種夏服）、航空警務隊本部（市ヶ谷駐屯地）所属航空警務官２等空尉……125／航空自衛隊航空服装、第３航空団第３飛行隊F-2パイロット（１等空尉）……126／第８航空団第304飛行隊F-15パイロット（３等空佐）……127／航空救難団新潟救難隊飛行班UH-60Jパイロット（２等空尉）……128／第５航空団整備補給群修理隊エンジン小隊（２等空曹）……129

イギリス空軍 …… 130
サービスドレス（勤務服）フライト・ルテナンド：大尉（WW2）、イギリス空軍の階級章……130

ドイツ空軍 …… 132
ドイツ空軍（国防軍）の制服、ドイツ空軍（国防軍）の階級章、ドイツ連邦空軍の階級章……132／最新パイロット装備……133

アメリカ空軍 …… 134
アメリカ空軍の階級章、ヘリコプターパイロットの装備……134

航空機搭乗員の装備 …… 135

第２次大戦の航空機搭乗員用装備 …… 136
ドイツ空軍（国防軍）戦闘機パイロット装備……136／日本海軍の航空機搭乗員……137

高度との闘い① …… 138
飛行高度と航空病……138／イギリス空軍戦闘機パイロットWW2、フライトヘルメットおよび酸素マスク（第２次大戦）、フライトヘルメットおよび酸素マスク（現代）……139

高度との闘い② …… 140
コックピットの与圧および暖房システム……140／飛行高度によって異なるパイロット装備、イギリス空軍パイロット（1950年代）、イギリス空軍FGR-1パイロット（1960～1970年代）……141

高度との闘い③ …… 142
コックピットの酸素供給装置……142／酸素供給装置、イギリス空軍パイロット（1960年代）……143

与圧スーツ …… 144
Mk.3プレッシャー・ジャーキン、Mk.2与圧／耐Gスーツ、究極の与圧服ACES……145

寒さとの闘い …… 146
イギリス空軍の飛行用防寒装備、イギリス空軍爆撃機クルー（WW2）、アメリカ陸軍航空隊爆撃機クルー装備……147／アメリカ陸海空軍歴代フライトジャケット、アメリカ空軍ジェット戦闘機パイロット装備……148／イマージョン・プロテクション・ガーメント……149

加速度との闘い …… 150
加速度の影響とは……150／荷重の影響を遅らせる耐G装備……151

フライトヘルメット …… 152
イギリス空軍のフライトヘルメットの変遷……152／イギリスのフライトヘルメットの特徴、ヘルメットの新しい機能……153／ヘッドアップ・ディスプレイとヘルメット・マウンテッド・ディスプレイはどこが違う？……154／F-35のパイロット装備……155

射出座席（エジェクション・シート） …… 156
高速からの脱出でもパイロットの体を保護するために工夫……156／高速で緊急脱出を可能にするパラシュート内蔵型の射出座席……157

サバイバル装備 …… 158
イギリス空軍のサバイバル装備（WW2）……158／個人用サバイバルキット（AN620-1）、E-3個人用エイドキット……159／現用戦闘機パイロットのサバイバル装備、イギリス空海軍の航空機搭乗員用サバイバルツール……160

中国、中華民国編 …… 161

中国人民解放軍 …… 162
人民解放軍の階級章①（武装警察）……162／人民解放軍の制服、武装警察（下士官・兵制服　男性用）、女性用07式制服……163／武装警官（戦闘装備）、人民解放軍陸軍自動車化歩兵……164／人民解放軍海軍、人民解放軍海軍 軍官（フリゲート艦搭乗員 上尉）、軍官（将校）袖章、人民解放軍の階級章②（海軍）……165／人民解放軍空軍、人民解放軍空軍 軍官（戦闘機パイロット 中尉）、人民解放軍の階級章③（空軍）……166

中華民国軍 …… 167
陸軍機械化歩兵（新型デジタル迷彩戦闘服を着用した歩兵中尉）、陸軍の階級章……167

第2次大戦のイギリス陸軍

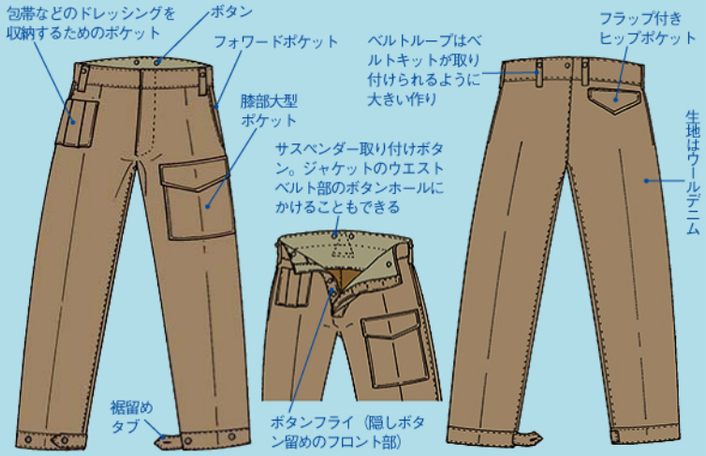
第２次大戦当時のイギリス陸軍ではまだ貴族的な伝統が残っていた。18世紀や19世紀には、貴族やその子弟が将校に任命されるのが一般的だった。平民出身でも能力があれば将校に任官することができるようになり、平民出身の将校の数が増えたのは20世紀に入り、第１次大戦の頃からのこと。また陸軍を構成する部隊も、伝統的に王室の近衛部隊（王室師団）や貴族のカーネル・イン・チーフ（私財をもって連隊を養うオーナー）が所有する連隊であった。こうしたことが貴族的な伝統を持つ理由で、制服などにはその影響が色濃く表れていた。ただ、戦闘服や戦闘装備は当時イギリスの置かれていた状況を反映して非常にシンプルで実用的だった。

●イギリス陸軍の歩兵用個人装備

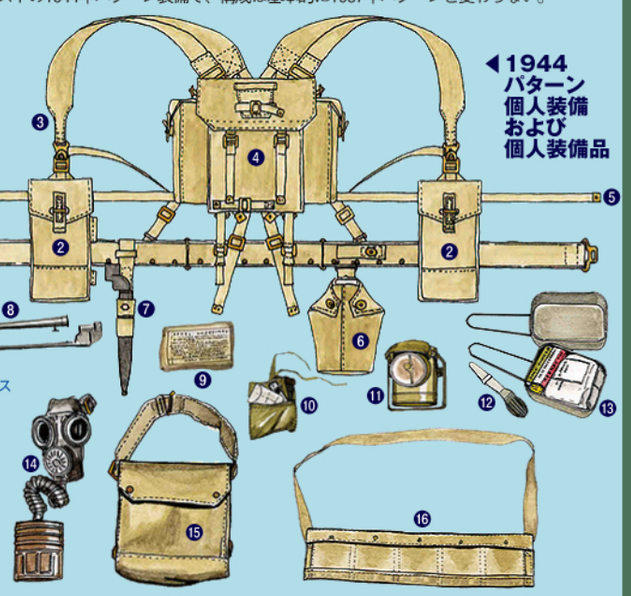
今日使用されている“Battle Dress（戦闘服）”という名称は、1930年代、より戦闘に適した新型制服を模索していたイギリス陸軍によって作られた。その名称を付けたイギリス軍の最初の戦闘専用服が37型戦闘服だった。37型戦闘服は短ジャケットとトラウザーズで構成、戦闘装備を装着しても動きやすいようにデザインされている。37型戦闘服が採用されたのは1937年、翌年の1938年から支給が始まった。そしてほとんどデザインに変更を加えることなく37型戦闘服をベースにした40型戦闘服が支給され、第２次大戦を通して使用され続けた。また37型戦闘服の基本デザインは1960年代まで踏襲されている。

▲37型戦闘服

❶No.1SMLEライフルの後継として1941年に採用されたライフル。リア・サイトの位置、銃口部などに変更を加えたSMLE Mk.Ⅲライフルの改良型で、口径7.62㎜。性能は優れていた。❷チェコ・スロバキアのブルーノ社のZB26をベースにして開発された銃で、非常に信頼性が高いガス圧作動方式の機関銃。口径7.7㎜



第２次大戦におけるイギリス軍の基本装備は1937年パターン装備で、キャンバス製のアンモポーチ、水筒、背嚢、バヨネット、エントレンチングツールをベルトとスリングで固定したものだった。この装備はベルギー、フランス戦などの大戦初期に使用されている。大戦初期の段階でドイツ軍に追い詰められてダンケルクからやっと撤退したイギリス軍は撤退時に大量の兵器を失い、イギリスは来たるべきドイツとの戦いに備えて軍備の増産を図らなければならなかった（当時、疲弊して軍備の増産もままならなかったイギリスを援助したのはアメリカであった）。そうした状況の下では新しい個人装備の開発まで目が向けられず、ようやく新型の個人装備が支給されたのは1944年以降のことである。その新しい装備が下のイラストの1944年パターン装備で、構成は基本的に1937年パターンと変わらない。



▼M1944ヘルメット

Mk.Ⅰに替わり、後ろ首部分の防御を考慮して1944年から採用された新しい形状のヘルメット、1980年代まで使用された

イギリス陸軍准将▶

❶将官用制帽（将官を示す赤いバンドが巻かれている）
❷Pre-1942パターン・サービスドレスユニフォーム
❸サムブラウンベルト
❹乗馬ズボン
❺将校用ブーツ（元は砲兵隊の将校用にデザインされた靴）

左はイギリス陸軍准将で、第２次大戦で使用された標準的な将校用制服（勤務服）を着用している。上着はPre-1942パターン・サービスドレスユニフォームと呼ばれる将校用ジャケット。レギュラー型の開襟、シングルブレステッドで、両胸部と両腰部にフラップ付きパッチポケットが付く。いずれのポケットもフラップ付きパッチポケットだが、フラップの形状や胸ポケットにはプリーツが付くなど形が異なっている。また袖口部分は折り返し式。肩のショルダーストラップに階級章が付いているが、イギリス陸軍で将校の階級章が肩に付けられるようになったのは1930年代からのこと。それ以前は袖部に階級章を付けていた。階級を識別し難いため取り付け位置が変更されている。両襟に付いている赤い襟章は将官を示すもの。乗馬ズボンは、軍隊が機械化されていない頃に将校は馬で移動していたことの名残。もっとも将校は第２次大戦当時でも乗馬の機会が多かったので乗馬ズボンが使用されたのだろう。第２次大戦では初期に乗馬ズボンを着用する者が多かったが、後期になるに従い通常のスラックスになっている。上着の上に着用しているのはサムブラウンベルトで、サーベルやピストルケースを吊り下げるためのもの。履いているブーツは当時使用された標準的な長靴で、着脱が容易なように足首から上の部分をバックルで固定する革製レギンスになっていた。

《制帽徴章》
准将および大佐用

《准将階級章》
佐官以上の階級章ではクラウンの階級徴章が付く

《ハイランダー略帽徴章》

❶グレンガーリイ
❷37型パターン戦闘服（将校用）
❸37型個人装備
❹アンモブーツ（将校・下士官・兵共通のデザインで靴底には鋲が打ってある）

《大尉階級章》

尉官の階級章では菱形階級徴章が、大尉は３個、中尉は２個、少尉は１個付く。数や並びは同じだが、連隊によっては独自のデザインの菱形階級徴章を使用した。

◀陸軍大尉

上のイラストはロイヤル・スコッチ連隊の大尉。ロイヤル・スコッチ連隊はハイランダー（スコットランド北部のハイランド地方の住民）で構成された精鋭部隊の１つ。イギリス陸軍では伝統を重んじることから将兵の着用する略帽は色や形が各連隊独自のものになっており、ロイヤル・スコッチ連隊ではグレンガーリイと呼ばれる独特な略帽を使用した。略帽の上部には赤いボンボンが付き、周囲にはハイランドの特徴であるタータンチェックが巻かれている。着用しているのは37型パターン戦闘服の上下だが、将校用（将校が自費で購入した服）なので作りが丁寧で、デザインも若干異なっている。たとえば将校用では上着の下にワイシャツとタイを着用するため、襟部分は開襟状態でも見栄えが良いように作られている。一方、下士官・兵は服の襟元を閉じて着用するように規定されている（ただし戦闘時は別）ためそのようには作られていない。また生地は下士官・兵用はウールデニムが使われているが、将校用はもっと上質なウール生地を使用している。第２次大戦中に使用された標準的な戦闘服には37型のほかに40型がある。服のデザインはほとんど変わらないが、40型では胸のポケットにプリーツが付けられていない。両者は混用された。

右のイラストは1942年頃のイギリス軍コマンド隊員。イギリス軍のトレードマークともいえるMk.Ⅰを被り、37型戦闘服の上下を着用、その上に防寒用のレザージャーキンを着ている。装着しているのは1937パターン個人装備。ベルトの下、キャンバス製アンモポーチの間に見えるものはトグルロープで、体を支えたり、連結して登攀具とするなど用途の広い木製握手付きロープ。レザージャーキンは牛革製防寒服のことで、イラストのように丈の短いチョッキ型と丈の長いコート型がある。いずれも袖は付いていない。また37型戦闘服のトラウザーズ裾部分にはレギンスが付けられている。レギンスは靴の履き口部から土や小石が靴の中に入ったり、戦闘中に裾が障害物に引っかかったりするのを防ぐための脚絆の一種。37型トラウザーズはレギンスを装着しやすいように裾部を絞る裾留めタブが付けられていた。トラウザーズのドレッシングポケットは傷を被うためのドレッシング（傷パット）を、左大腿部の大型ポケットは地図などを入れるために取り付けられたもの。履いているのはイギリス陸軍伝統のアンモブーツ。

▲陸軍兵士（コマンド隊員）

❶Mk.Ⅰヘルメット
❷37型戦闘服（短ジャケット）
❸レザージャーキン（革製防寒衣）
❹37型個人装備
❺トグルロープ
❻37型トラウザーズ
❼レギンス
❽アンモブーツ（Ammunition Bootsの略）
❾トンプソンM1926A1

現代のアメリカ陸軍❷
レンジャー隊員

現代（2000年代に入ってから）のアメリカ陸軍の兵士はどんな装備や武器を携行して戦うのだろうか。現代のアメリカ陸軍の個人装備は非常に多様になっているので、右のイラストのレンジャー隊員を例にして主なものを解説してみよう。

❶MICHヘルメット（暗視装置マウント付き）、❷ピックアップマイク（骨伝導マイク、骨伝導で送信を行なうので安定した音質が得られ環境に左右されない）、❸ヘルメット・パッド、❹ヘッドセット（MSA SORDIN MICH Dual Communication System）、❺ヘルメットレイル（LEDのヘルメットライトなどを取り付ける）、❻PCWC（Plate Carrier With Cummerbund：縫い付けられたウエビングテープによりマガジンポーチなどの装備品を携行するタクティカルベストの機能と、アーマープレートを挿入することでボディアーマーの機能を合わせ持つプレートキャリアー。アメリカ陸軍ではいくつかのタイプのプレートキャリアーが使われているが、イラストでは標準的なPCWCにした）、❼挿入式アーマープレート（PCWCに挿入した状態）、❽ACS（Army Combat Shirt：戦闘シャツ）、❾バックパック、❿ハイドレーション・システム（給水装置）、⓫レーション（Meal、レトルト化された戦闘食）、⓬ユーティリティポーチ、⓭ファーストエイドキット（傷口を被うフィールド・ドレッシングやガーゼ、エアウエイ、医療用ゴム手袋、止血帯などが入っている）、⓮暗視装置（AN/PSQ-20、赤外線映像装置とスターライト暗視装置を一体化させた夜間視察装置）、⓯WAGBAG（携帯トイレ）、⓰携帯無線機（AN/PRC-148 MBITR）、⓱マガジンポーチ、⓲ピストルベルト、⓳下着、⓴ピストルホルスター（イーグル社ユニバーサル・ホルスターにベレッタF92FSを収納）、㉑膝パッド（膝パッドや肘パッドは2000年代に入って多用されるようになっている）、㉒コンバットブーツ（クールマックス素材などを使い内部が蒸れず、ソールには衝撃吸収素材が使用され着用感が良く長時間履いても疲れにくいように工夫されている）、㉓従来型ACP（Army Combat Pants）、㉔ガスマスクケース、㉕M40ガスマスク（歩兵などの一般兵用ガスマスク）、㉖多機能ナイフ、㉗ストロボライト、㉘コンパス、㉙MK3A2手榴弾、㉚戦闘用グローブ、㉛FN SCAR（M-16の後継として採用されたアサルトライフル。Ⓐ光学サイト、ⒷIRレーザー／IRイルミネーター）

●アメリカ陸軍レンジャー隊員の装備と武器

一般歩兵に較べて携行する装備品が多く、動きやすさを重視する特殊部隊やレンジャー部隊の隊員はボディアーマーよりもプレートキャリアーの方を好む。

ウエビングテープで装備品を携行でき、TPOに応じてソフトアーマー（K2ケブラー繊維などの強靭な繊維を積層構造に重ねたもので、ピストル弾を阻止できる）やアーマープレート（SAPIセラミックプレート）を挿入することで耐弾機能を持たせることができるからだ。ボディアーマーに較べ重量も軽く使いやすいが、防護できるのは体の主要部のみ（CIRASのように股間部を防護するグローインアーマーを装着できるものもあるが、通常は胴体部のみ）である。

《マガジンポーチ》

《ユーティリティポーチ》

▼PCWC（前面）

《グレネードポーチ》
ウエビングテープ

▼PCWC（後面）とバックパック

プレートキャリアーにはファステックスを使い、ハイドレーション・システムを入れたバックパックを装着して携行できる。

◀CIRAS（Combat Integrated Releasable Armor System）
EAGLE社がアメリカ特殊作戦軍の隊員用に開発したプレートキャリアーで、内部にソフトアーマーパネルとアーマープレートを挿入できる。

※Multi Cam：マルチカムはクレイ・プレシジョン社が開発した迷彩パターン。

アメリカ陸軍では2010年にアフガニスタンでの運用試験の結果に基づいて、それまで使用されていたデジタル迷彩パターンのUCPに替わって新型迷彩パターンのOCP（Operation Camouflage Pattern、マルチカム迷彩のアメリカ軍名称）を採用した。それにともない戦闘服も新型になった。シャツは戦場での体の激しい動きを制限しないようにストレッチ織りにすることで布に伸縮性を与え、ジャージのような着用感がある。パンツは素材に耐火性レイヨン、パラアミド繊維、ナイロンを混紡することで耐火機能を持たせている。戦場で火炎から兵士を守るためだ。

ACS（Army Combat Shirt）はコットンとレイヨン主素材にスパンデックス、ポリエステルを加えた素材で作られた戦闘シャツ。戦闘装備を装着する胴体部はシャツ状、腕部はACUの袖部分のように迷彩になっている。両上腕部にはファスナー開閉式のパッチポケット❶が付いている。また両肘部分は弾力性を持つ素材を使用した衝撃吸収構造の肘当てが付く。胴体部分は側部❷がOCP迷彩になっており、ボディアーマーを着用したときにも外側から見える部分の迷彩効果を高めている。前面および背面は高い通気性、吸湿性、即乾性を持つように加工してある。

胸❸と腹❹部分はメッシュ状になっている。こうした工夫が凝らされているのはボディアーマーやプレートキャリアーなどを装着した際に胴体部がオーバーヒートになってしまわないようにするためだ。

※イラストのACPは試作型で膝周りにストレッチ素材が使用されていないなど、現用のものとは若干デザインが異なる。

75th Ranger Regiment Member（第75レンジャー連隊隊員）

アメリカ陸軍レンジャー隊員の現用装備。❶MICHヘルメット（暗視装置マウント付き）、❷コミュニケーション・システム（MSA SORDIN MICH Communication System：無線通信を行なうとともに爆音を遮断しつつ集音機能を持つ高性能ヘッドセット）、❸プレートキャリアー（防弾素材であるセラミックプレートを挿入するポケットの付いたタクティカルベスト）、❹ACS（ボディアーマーやタクティカルベストを装着して活動してもヒートストレスにならないようにコットン、ポリエステル、レイヨン、スパンデックスの混紡繊維で作られており、胴体部分はメッシュ状で通気性と伸縮性が高いシャツ）、❺大型多目的ポーチ、❻ピストルホルスター（ベレッタM92FSを収納）、❼タクティカルブーツ、❽試作型のACP（戦闘用のカーゴポケットパンツ）、❾ガスマスクケース、❿マガジンポーチ、⓫コンバットグローブ、⓬FN SCARアサルトライフル、⓭MECP（戦闘用防護グラス）

新型ACS▶

新型ACP▶
※Army Combat Pants：戦闘パンツ

新型の戦闘パンツは、パーツの1つとして膝パッドをパンツに組み込んだことが最大の特徴。膝パッドはゴム状の弾性力を有するエストラマーのような新素材とネオプレーン素材が使用され、固い地面や衝撃から確実に膝を防護できる。上図のように膝パッドはパンツの膝部分に開けられた穴から挿入してベルクロで固定する。取り付けた膝パッドはパンツに付けられたフラップで膝に密着させるようになっている。図では描いてないが、パンツの後面にはフラップ付きのヒップポケットが2個付いている。

常装第1種夏服 海士長および海士

海士長および海士用の通常礼装を着用した海自隊員。通常礼装は冬服に白手袋を着用、白色の弾薬ベルトを付ける。海士長以下の隊員は冬服では左上腕部分に甲階級章を装着する。写真の右および中の隊員が階級章と一緒に左腕に付けているのは精勤章。

海士長および海士用の常服には冬服、第１種夏服、第３種夏服がある。冬服、第１種夏服ともにセーラー帽型の制帽（正帽）、セーラー服上着（セーラーカラーの付いた長袖シャツ）とズボン（セーラーズボン）、スカーフ、黒の短靴（海曹長以下は冬服夏服とも黒の短靴）という構成だが、冬服と夏服では服の色が異なっている。冬服は黒（濃紺）の上下、夏服は白の上下で、冬服には左上腕部分に甲階級章、夏服には丙階級章をそれぞれ装着する。制帽は共通でクラウン部が白、縁（まき）部分に黒（濃紺）ペネントが巻かれている。冬服、第１種夏服ともに昭和29年（1954年）の海上自衛隊創設時に制定されたデザインがそのまま踏襲されている。第３種夏服は昭和33年に夏期用の略衣として制定されたものが昭和45年に第３種夏服となった。上着がセーラーカラーの付かかない開襟の半袖シャツで、左胸部分にパッチポケットがある。第３種夏服では左上腕部に丙階級章を装着する。

常装第1種夏服上着▶

常装冬服上着▶

	甲階級章	丙階級章		甲階級章	丙階級章
統合幕僚長および海上幕僚長たる海将			准海尉		
海将			海曹長		
海将補			1等海曹		
1等海佐			2等海曹		
2等海佐			3等海曹		
3等海佐			海士長		
1等海尉			1等海士		
2等海尉			2等海士		
3等海尉			自衛官候補生	（平成23年度から）	自衛官候補生は略章なし（平成23年度から）

▼先任伍長識別章

平成15年に制定された海上自衛隊の先任伍長制度に基づいて定められた徽章

《海上自衛隊先任伍長》

《自衛艦隊等先任伍長》

《警衛海曹識別章》

《分隊先任識別章》

《班長識別章》

●海上自衛隊の階級章

海上自衛隊の階級章には甲、丙、乙および略章がある。甲階級章は常装冬服、丙階級章は第１種および第３種夏服、乙階級章はワイシャツ（幹部および准海尉）および作業服（全階級）のショルダーストラップにそれぞれ装着する。乙階級章は布製の袋状台地に階級を刺繍したもので、装着法は陸海空共通。102ページ参照。

海上自衛隊の階級章では甲および丙階級章が特徴的な形態になっている。とくに甲階級章は幹部および准海尉が上着の両袖に付ける袖章で、これはイギリス海軍やアメリカ海軍の士官用制服に倣ったもの。旧海軍の第一種軍衣や通常礼装では蛇の目の袖章を装着していたが、海上自衛隊では金線に桜章の組み合せになっている。袖章は一番下の金線の下端が袖口から海将補以上が５㎝、１等海佐以下の幹部自衛官および准海尉は６㎝の位置にくるように定められている。

また丙階級章も幹部および准海尉はショルダーボード型（厚手の生地を使った短冊型の台地に、桜章と階級に応じた数のしま織り金線を配してある。台地の裏には服に装着するための留め金具が付いている）で夏服の肩部分に装着する。一方、海曹長以下は甲および丙階級章ともに左上腕部に装着する腕章になっている。装着位置は海曹長から３等海曹までが服の肩部袖付根から12㎝、海士長以下が10㎝の所に階級章の台地上端がくるように定められている。

略章は航空服装などの一部の特殊服装のみに装着する。このため乙階級章のほうが使用頻度は高い。乙階級章のデザインは丙階級章と同じ。

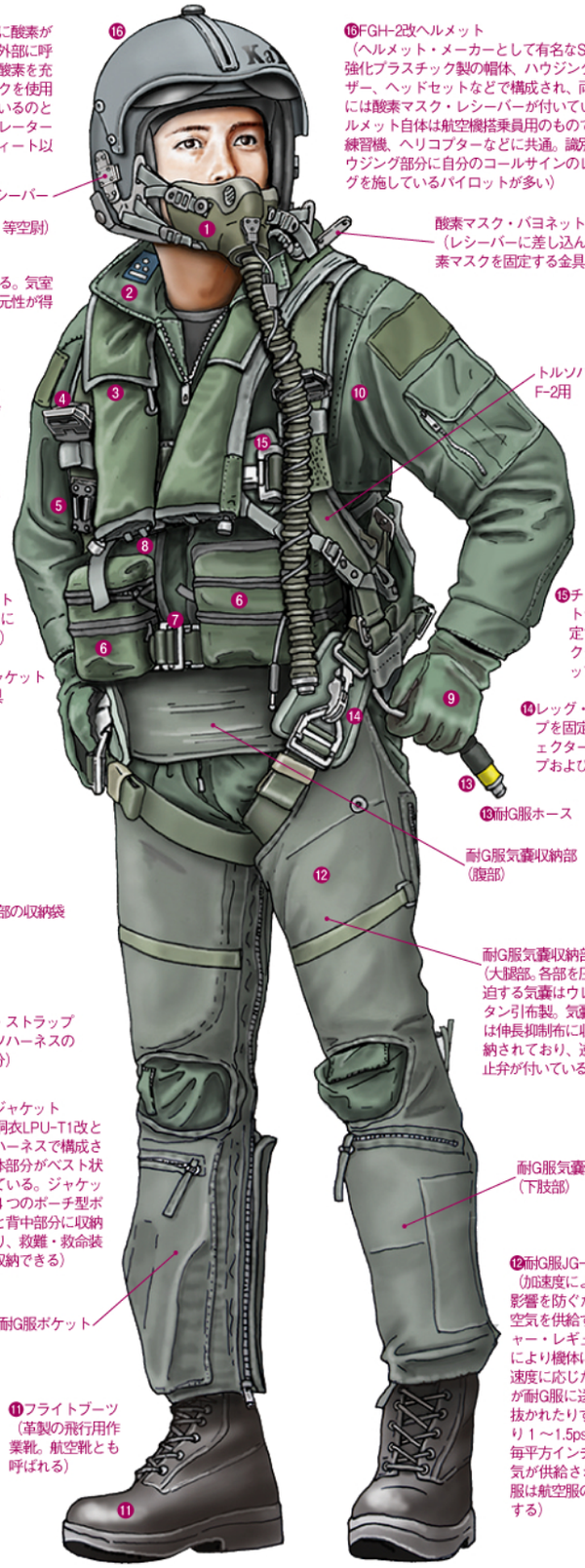
航空自衛隊航空服装

航空自衛隊の航空機搭乗員が着用するのが航空服装で、航空服、航空帽（航空ヘルメット）、航空靴、航空手袋を基本として搭乗する機体により各種装具類が付属する。中でもF-2やF-15に搭乗するジェット戦闘機のパイロットの装具は特徴的だ。

❶酸素マスクMO-15
（着用者が酸素を呼吸しようとする吸気時のみ吸気弁が開いてマスク内部に酸素が流入し、排気する呼気時には吸気弁が閉じられ呼気弁のみが開いてマスク外部に呼気を排出する構造のデマンド型。このタイプの酸素マスクは呼吸に応じて酸素を充分に肺に供給できるうえ、酸素の浪費が少ないという利点を持つ。酸素マスクを使用することで高度40,000フィート程度までは高度10,000フィートを飛行しているのと同程度の状態を保つことができる。戦闘機では通常、酸素供給装置のレギュレーターにより高度に応じて酸素と空気を混合して使用しているが、高度23,000フィート以上になると100%の酸素を供給する必要がある）

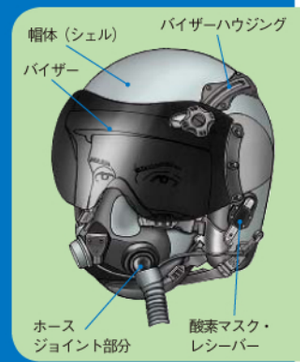
❸救命胴衣LPU-T1改
（襟状の収納部に炭酸ガスで膨張する首掛け式の浮袋：気室が収納されている。気室は二重構造になっており、片方の気室が不作動でも、もう片方で安定性と復元性が得られるように工夫されている）

※❹❺❻❽❿はトルソハーネスに取り付けられた金具



第3航空団第3飛行隊 F-2パイロット（1等空尉）

［上／下］F-15およびF-2に搭載されているACESⅡ射出座席。F-22などにも搭載されており実績が高い射出座席だ。上の写真で分かるように座席の底面には射出時の座席の状態を検知して姿勢を安定させるためのジャイロや補助ロケット❶などが取り付けられている。座席の下に見える金色の筒は射出用ロケット❷、その両側は座席を安全に機外に射出するためのガイドレール❸。パイロットは緊急時に射出座席を使い脱出するが、その際には15Gほどの加速度が体に加わる。かなりの衝撃だ。



新型ヘルメットと酸素マスク

空自の新型ヘルメット HGU-55P/Jは、高速時の緊急脱出を考慮したF-2戦闘機のパイロット用ヘルメット。ファイバーグラスとケブラー繊維を使用した帽体はアメリカ空軍のHGU-55/P、固定式バイザーハウジングを持つスライド式のスモークレンズ・バイザーはアメリカ海軍の HGU-68/P をそれぞれベースにしているようだ。また導入された新型の酸素マスクはMBU-20/Pをベースにしたもので、酸素供給ホースのジョイント部分を正面から横にずらして高いGが加わったときの負荷を軽減するように工夫されている。

◀F-15DJ 戦闘機（複座型）

◀F-2A 支援戦闘機

第8航空団第304飛行隊 F-15パイロット（3等空佐）